第２節　将来像実現のために

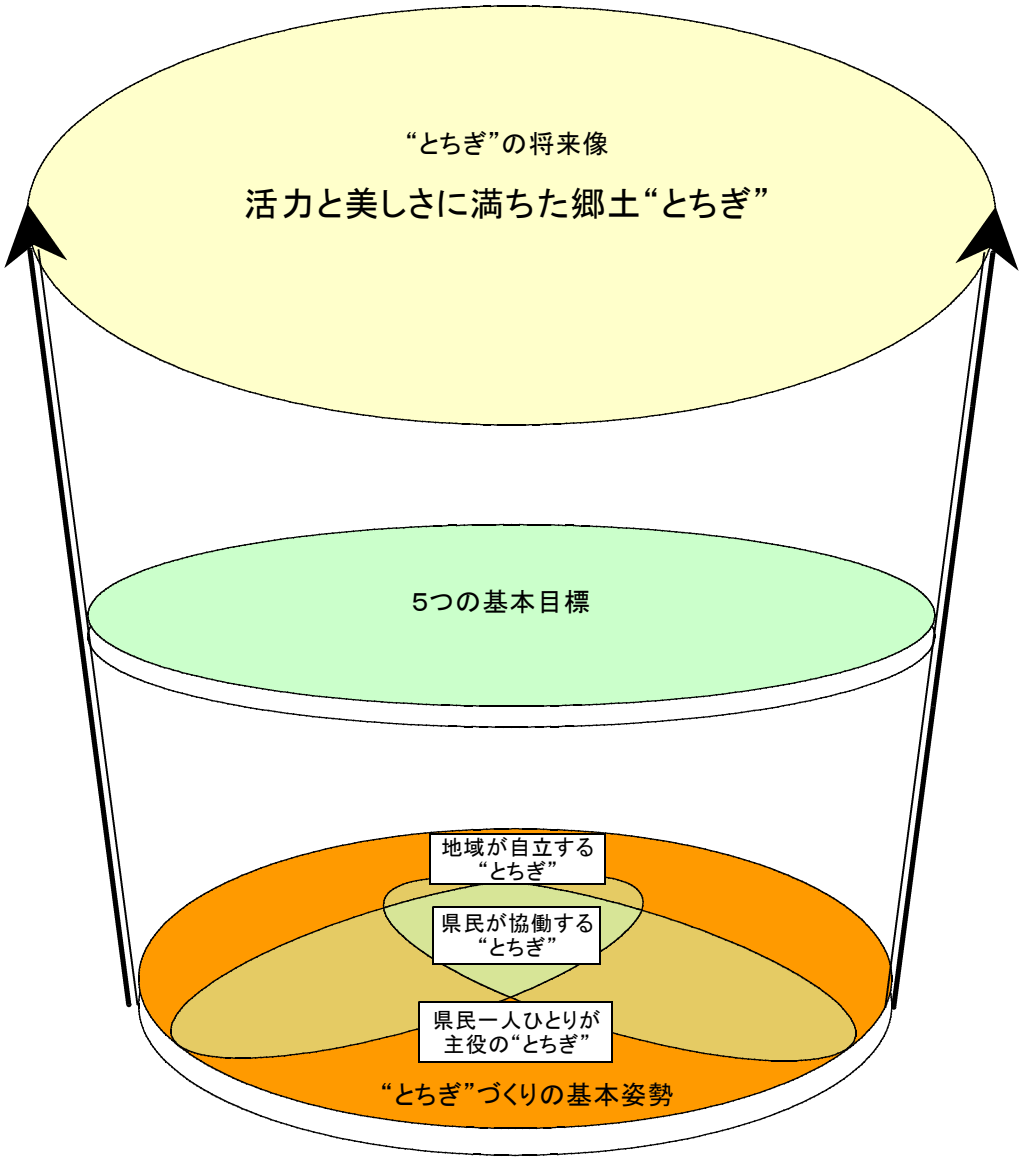
1)“とちぎ”づくりの基本姿勢

これからの社会は、まず、人と人とが互いに認め合える社会としていくことが重要です。そして、多彩な「個」や「地域」が、共通する課題について、それぞれの持つ個性や能力を最大限に発揮し、ある時は協力しつつ、ある時は切磋琢磨することによって、社会は発展していきます。

“とちぎ”の将来像を実現するためには、県民や団体、企業、行政など“とちぎ”づくりのすべての担い手が、郷土が抱える課題解決に向けて、積極的に参画していこうとする主体的な姿勢を持つ必要があります。

そこで、この計画では、これからの“とちぎ”づくりの原点となる「人と社会のあり方」、いわば“とちぎ”のあり方を「基本姿勢」としてお示しし、これらを県民の皆さんと共有することによって、将来像を実現していきたいと考えています。

構成イメージ



①　県民一人ひとりが主役の“とちぎ”

社会は人によって成り立ち、そして人は社会によって生かされます。

近年は、経済的な豊かさだけを追い求めるのではなく、他者や社会との関わりの中で生きることや人間として成長することに喜びを見出し、そして、精神的な充足感や真の豊かさを得ようとする考え方が広がりを見せ、自己実現に重きをおいた生き方、働き方を選択する動きが出てきています。

これからの“とちぎ”は、すべての県民が、学ぶこと、働くこと、生きることについて、その意味や目的、そして喜びや楽しみを見出すとともに、社会に積極的に参画し、貢献していこうという、**県民一人ひとりが主役となる社会**としていかなければなりません。

そうした県民一人ひとりが、それぞれの個性を伸ばし、能力を高めるとともに、その個性や能力が最大限に発揮されることによって、活力ある地域が生み出されていきます。

②　県民が協働する“とちぎ”

社会は人と人とのかかわりを通して形づくられていきます。

近年は、住民やボランティア、ＮＰＯなどによる多種多様な社会貢献活動が活発になっています。こうした活動は、「何か社会に役立ちたい」という住民意識の高まりを反映しており、身近な問題を自らの問題として考え、そして行動することによって、自らはもちろん、周囲の人々にとっても心やすらぐ地域や社会を創造していこうとする意識の現れでもあります。

これからの“とちぎ”は、県民やボランティア、ＮＰＯ、企業、行政などが、それぞれの立場を超え、さらには性別や世代といった垣根にとらわれることなく、連携・協力していくという、**県民が協働する社会**としていかなければなりません。

すべての県民が、互いを認め合い、それぞれの個性や能力を持ち寄り、そして協力し支え合うことによって、真に豊かな地域が創られていきます。

③　地域が自立する“とちぎ”

人のありようや社会のありようは、自らが選択し決定すべきものです。

地方分権や規制緩和に代表される改革の動きは、政治・経済分野にとどまらず、人や社会のあり方全般にわたって「自己決定」「自己責任」の考え方が求められていることを背景としている一方、住民あるいは地域、企業などが、自らの将来の方向を自らが選択し決定できる社会を目指すものです。折しも、自発的な地域活動が各地で展開されるようになり、「地域のことは地域で解決する」という意識が、広く定着してきています。

これからの“とちぎ”は、県民やボランティア・ＮＰＯ、企業、行政などそれぞれが、「自己決定」と「自己責任」を基本とした、自主的で自発的な行動により個々の課題を解決していこうという、**地域が自立する社会**としていかなければなりません。

自立する個人とその相互関係でかたちづくられる自立した地域が、これからの“とちぎ”づくりの原点であり、２１世紀に“とちぎ”が飛躍する原動力となります。

こうした“とちぎ”づくりの考え方のもと、県民の皆さんとともに将来像を実現して参りたいと考えています。

そこで、県としては、県民や市町村等との関係など、本県における新しい自治のあり方を県民の皆さんと一緒になって議論しながら、新たな地方自治の基盤づくりに取り組んでいきます。